

家族から
介護の日々に

家村 富美子

私の夫が発病いたしまして、5年の月日が流れました。脳梗塞と心筋梗塞、急性心不全など、四度発作を起こし今は寝たきりになってしまいました。

その間、私は夫の看病に明け暮れ毎日病院通いをしております年に一回のクリスマスに皆様と音楽を共にさせていただき、心より感謝申し上げます。皆様のゆるぎない向上心、温かい友情と思いやりに心打たれております。

私の今の生活は、不安の日がつづきます。けれども希望は捨てません。今の人生を「あるがままに」受け入れ、生かされていることに感謝しています。

ある人が言っています。「人生は学校である。そこでは幸福よりも不幸のほうが良い教師である」と。ですが、今私は元気を出して一生懸命生きて行きたいと思っています。

◆短歌

夫の介護をしながら短歌を詠い続けてまいりました。その中の、ある秋の日々に詠った拙歌でございます。

極限まで色を増したる樹々の紅
旅路の果を見せて耀く

われは旅人今ここに独り
生病老死の路あゆみゆく

笑み失い病夫は孤高の人となり
その目に写る清し冬空

屈辱と拷問をうく如し
孤高の病夫の体動かず

寝たきりの病夫の苦痛にすべもなく
ひと日命の日渾沌と過ぐ

介護帰りの後方の電灯にわが影の
二つに照らされふと脅えたり

思いわずろう日々坂道のあてどなし
心の鼻緒切れてゆかむまで

無口なる病夫にひと日を寄り添いて
人形作りぬ快癒をこめて

トルコキキョウの花病室に溢れいて
永遠に理解しがたし病夫の心は

バスの窓より夾竹桃の花見ゆる
夕の大気の中に翔ぶ白

重症の病夫が希望の旗立てて
命の綱を歩みゆく日々

◆キリスト教について思うこと

イエス・キリストによって示された神様を「神」として聖書を通じて教えられる約束を、神との約束と信じ、その中に本当の真理があると思います。

すなわち、神とは「私達人間や宇宙の全てのものを創られた方」だと信じるのであって、神の御心に従うことが基本になっています。

おしゃかさまは「私の言ったことを守って下さい」と言われました。

イエス・キリストは「私を信じて下さい」と言われました。

まだ見ていない事実を確認する、つまり、キリストの人格を信じる、ということが信仰するということとして、キリスト教は、

人間が作り上げた前提の上のみ成り立つ科学の世界、手に触れたり、科学的に証明したりする世界とは違った、また、道徳ではない、また、掟とか信念が第一とは考えない広い世界なのであります。

パスカルがパンセの中で「神を直感するのは心構えであって、理性ではない。心情は直感される」と言っています。そして、それこそ、信仰であると申しています。

神と人間とを結びつける、この約束が聖書の教えるキリスト教の世界であり、それを信頼してゆく事が、キリスト教の信仰であります。

その事については聖書に書いてあります。聖書は“The バイブル”と言います。

この“The”は世界でたった一冊の書物であって、本当の書物とされています。

もし、お気持ちがおありでございましたら、聖書を読んでみて下さいませ。

その中に、本当の真理があると私は信じてます。また、キリスト教では祈りと愛を大切にいたします。

神さまは、私たちの祈りを聞いて下さると信じます。

が、しかし、それは、私たちの願いどおりの事を実現して下さいということではなく、神さまが、最もよいと思われる方法で、実現して下さいと信じるのです。

祈ったこと以上に良い道を備えて下さると信じるのです。

私もいくつかのそうした経験はございました。

大切なことは、神は「愛の神」であるという事です。

ですから、私たちは神に愛されているものとして人を愛することが、大切なことと聖書からも教えられます。

しかし、人を愛したから、神さまに認められるとは、考えないのです。

神の愛に比べれば、私たちの愛は、小さな小さなものにすぎないからです。

そして、本当の愛を行うことが、なかなか

出来ないだけでなく、ある時は、自分を絶対化してしまって、神さまの心に従って生きることが出来ないのです。

それを、キリスト教では、罪と言います。この世では「罪はない」と言っても神の前に「罪」はないと言える人はいないのです。

この場合の罪は一般の法律上で言う罪とは違い、自分を絶対化する人間の事を言います。それは、神を絶対としないで、自分の判断を絶対としてしまうからです。

罪からのすくいには、心からの悔い改めと、神さまに認められる事であり、神に認められるには、神の愛による罪の許しをうける以外にはないのです。

神は、神の御子イエス・キリストを十字架に掛けて私たち人間の罪を裁き、その事によって「人間の罪を許す」と云う道をとられたのです。

聖書中の言葉で、私にとって毎日にかかされている言葉があります。

「明日を思いわずらうなかれ、明日は明日自身が思いわずらうであろう、一日の苦勞は、その日一日だけで十分である」

私は、その日その日、今ここに あるがままの自分で、今を生きてゆくことが、大切だと思っています。

「愛は寛容であり、愛は情け深い、また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない、不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない、不義を喜ばないで、真理を喜ぶ、そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える、いつまでも存続するのは、信仰と、希望と、愛、この三つである。

このうち、最も大いなるものは“愛”である」

神に認められているから、小さな愛しかできなくても、愛をめざして生きるのが、キリスト信者にとって大切な事になるのです。

”アーメン” 真実

